

国際貿易論 2020 第8回 (7/9)

学生さんへ

- ・ ネット接続料金は大丈夫？
- ・ 7/2は北海道札幌出張でした・



1) 今日の授業の資料（数学の資料）は、以下のホームページにあります。

<http://www.nsu.ac.jp/official/fa/eguchi/index.html>



2) **授業についての連絡**（レポートや課題の**メールによる提出**を含む）は

○ eguchi@st.nsu.ac.jp （授業専用のメールアドレス）

✕ eguchi@econ.nsu.ac.jp

に送って下さい。

先週までのお話

鎖国していたある国が、開国をしたら
どんなことがおきるか？



1つの国しか登場しなかった。

今週からのお話

2つの国が登場して、「お互い、何を輸出し
何を輸入することになるか」といった話し
など

とりあえず今日は「リカードの比較生産費説」

リカードの比較生産費説

リカードという昔の大経済学者がその主著である

「経済学および課税の原理」

という本（古典）の中で論じた（章を作って論じた）内容。

国際貿易論の「事始め」（ここから国際貿易論というものは始まった、という、まさに「最初の中の、最初」）

リカードの比較生産費説

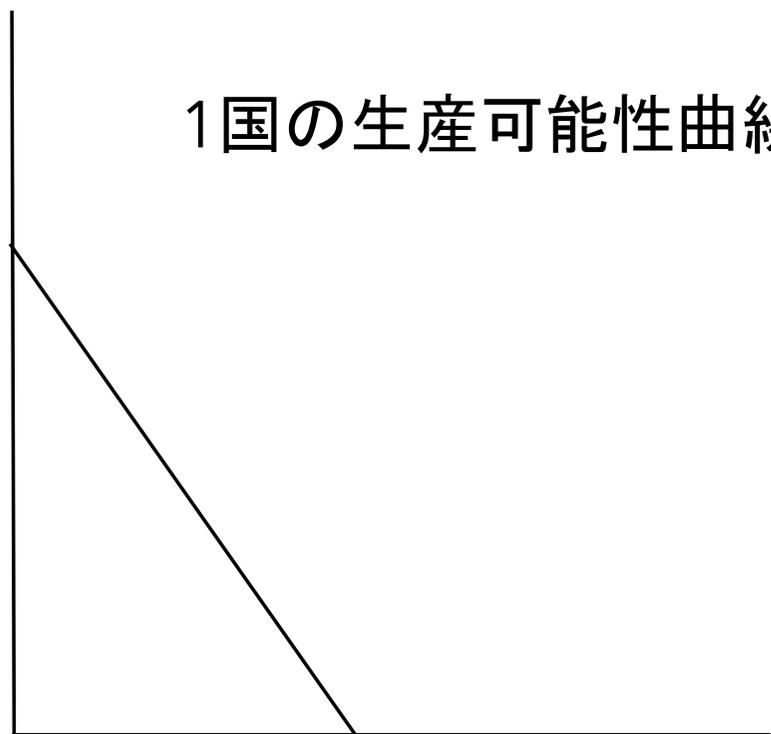
生産者

- 2つの国（1国と2国）がある。
- どちらの国も、「どちらの国で作られたかは見分けが付かない」2種類の財（例えば米と麦）を作っているものとする。
- どちらの国も、生産要素は「労働サービスあるのみ」
資本ストック（つまり工場）はどちらの国にもない。
どちらの国も、自分の国の国民（＝労働者）が全て手作業で
「米」と「麦」の一方または両方を作っている。
- ただし、それぞれの国の人口（＝労働者の数。つまり労働資源の量）は異なる（**が、同じでもよい。同じと考えましょうか。**）。
- また「米」と「麦」の作り方もそれぞれの国で異なる。お互い「独自のやり方」で作っている。

消費者

- 2つの国の消費者の「好み」は（ほぼ）一緒。

2財（麦）

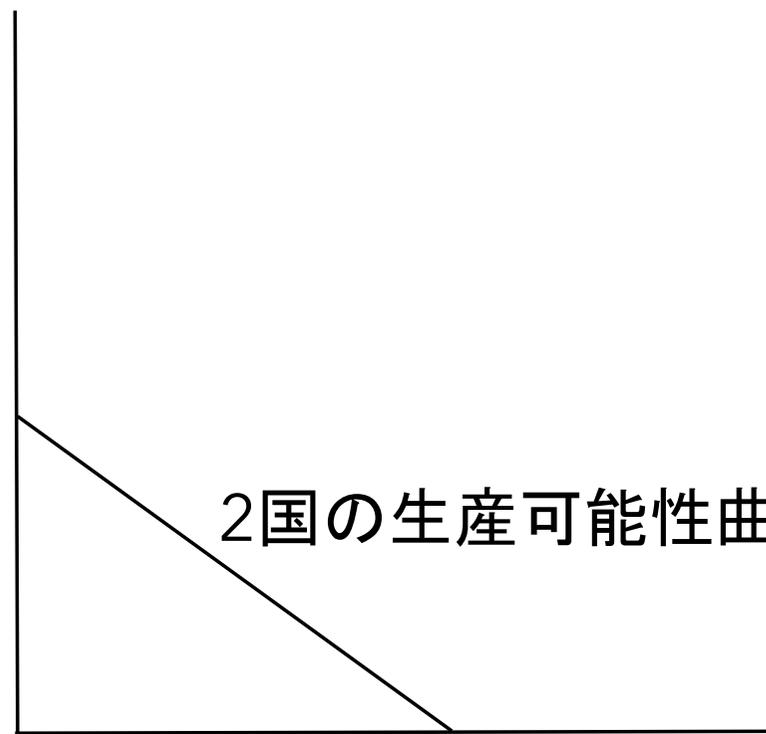


1国の生産可能性曲線

1財（米）

1国（大きな国）

2財（麦）

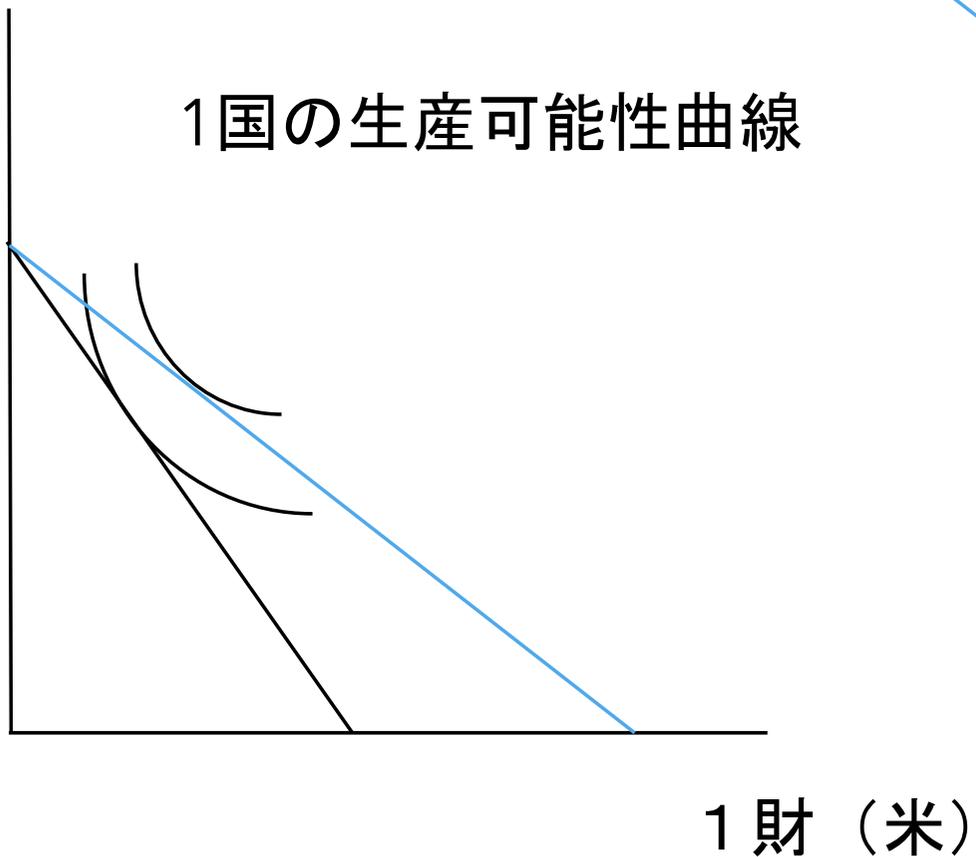


2国の生産可能性曲線

1財（米）

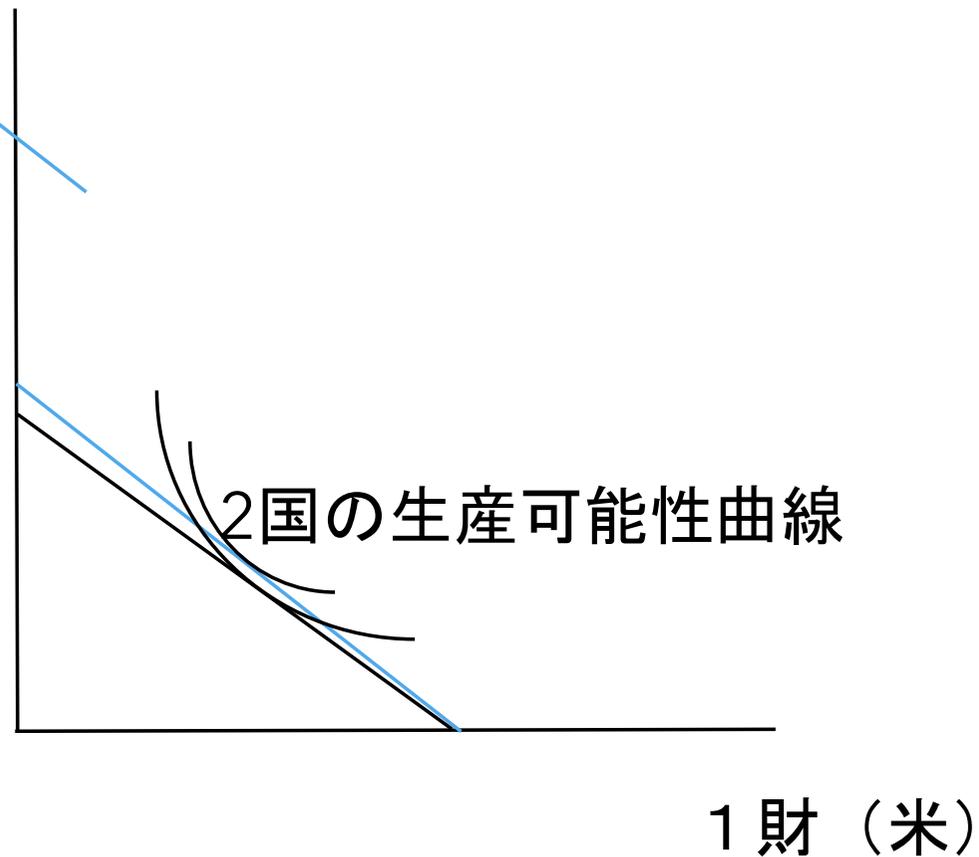
2国（小さな国）

2財（麦）



1国（大きな国）

2財（麦）



2国（小さな国）

リカードの比較生産費説

- 世界にはこの2つの国（1国と2国）しかない。
- しかも鎖国していた。

- しかしお互い開国して貿易をすることにした。

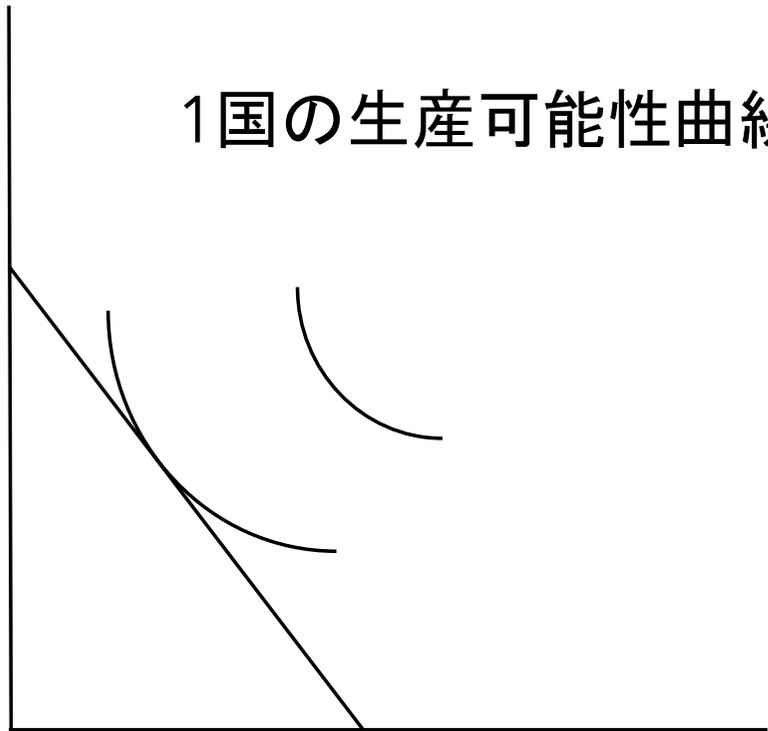
- お互い開国した場合、どちらの国も（なぜか？）「完全競争的な世界市場」で、お互いに貿易を始めることになる。

- いざ、この2つの国が貿易を始めたら、どうなる？何がおきる？
- 特に、2国（小さい方の国）はどうなってしまう？

リカードの比較生産費説（途中まで先ほどのスライドと一緒に）

- 2つの国（1国と2国）がある。
- どちらの国も、「どちらの国で作られたかは見分けが付かない」2種類の財（例えば米と麦）を作っているものとする。
- どちらの国も、生産要素は「労働サービスあるのみ」
資本ストック（つまり工場）はどちらの国にもない。
どちらの国も、自分の国の国民（＝労働者）が全て手作業で「米」と「麦」の一方または両方を作っている。
 - なので「労働集約的」とか「資本集約的」という話しはでてこない（場違いで、出てこない）
- また「米」と「麦」の作り方もそれぞれの国で異なる。お互い「独自のやり方」で作っている。
 - ラーナーさんは「技術はどの国も共通」という想定だった

2財（麦）



1国の生産可能性曲線

1財（米）

1国（大きな国）

「正直、1財生産よりは2財生産の方が得意だ」

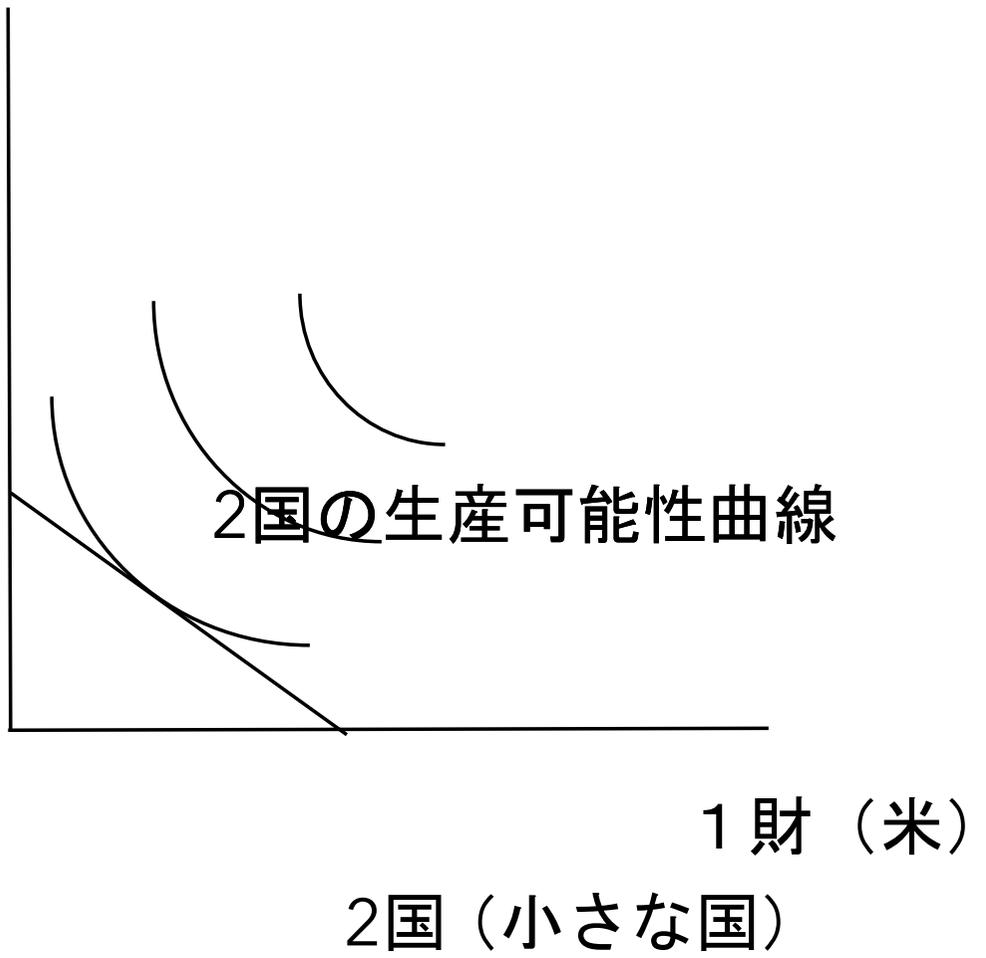
「このたび開国し、2国と貿易することになった」

「だったら1財生産の生産は減らして、2財をたくさん作って、それを貿易相手の国である2国に売って、2国製の財を買ってあげて得た方が楽では？
（得では？）」

「正直、2財生産よりは1財生産の方が 2財（麦）得意だ」

「このたび開国し、1国と貿易することになった」

「だったら2財生産の生産は減らし（何ならゼロでも構わない！）、で、1財を（できる限り）たくさん作って、それを貿易相手国である1国に売って、1国製の2財を買った方が楽では？（てっ取り早いのでは？得なのでは？）」



このような

「それは、自前で（＝自国で）生産するよりも、それは他国に作ってもらって、我が国はこちらをたくさん作って、それを輸出して、交換して、それを手に入れた方が有利じゃないの？（楽じゃないの？得じゃないの？）

という**関係性**がそこには（自ずと）生じてくる。
この関係性のことを「**比較優位**」という。

1国は、2財をたくさん作って、それを1国に輸出して（代わりに）1財を輸入して手に入れば良いじゃん（楽じゃん、有利じゃん、得じゃん）なので、1国は2財（の生産）に「**比較優位がある**」という。

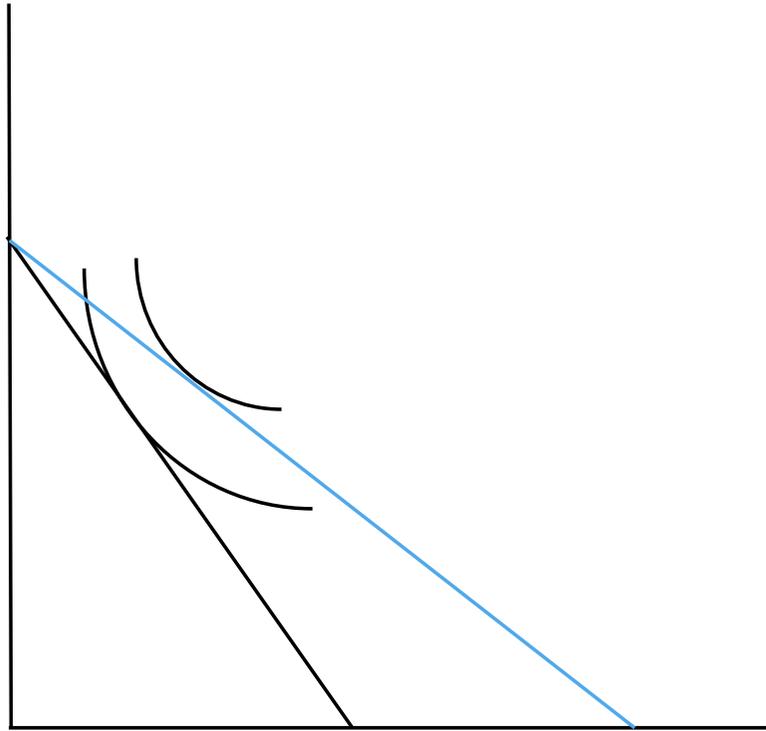
2国は、1財をたくさん作って、それを2国に輸出して（代わりに）2財を輸入することで手に入れば良いじゃん（楽じゃん、有利じゃん、得じゃん）なので、2国は1財（の生産）に「**比較優位がある**」という。

比較優位

「それは、自前で（＝自国で）生産するよりも、それは他国に作ってもらって、我が国はこちらをたくさん作って、それを輸出して、交換して、それを手に入れた方が有利じゃないの？（楽じゃないの？得じゃないの？）

という**関係性**

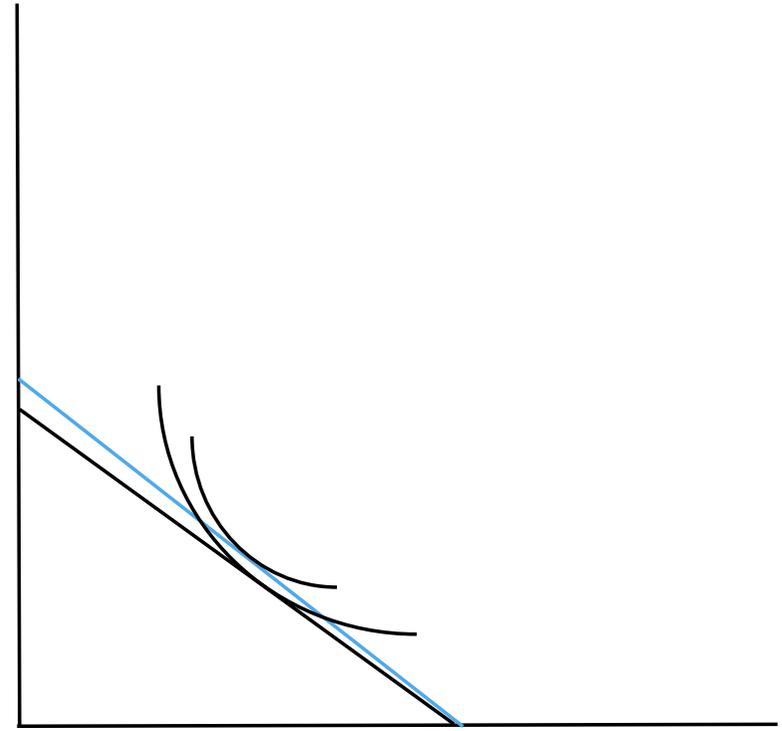
2財（麦）



1財（米）

1国（大きな国）

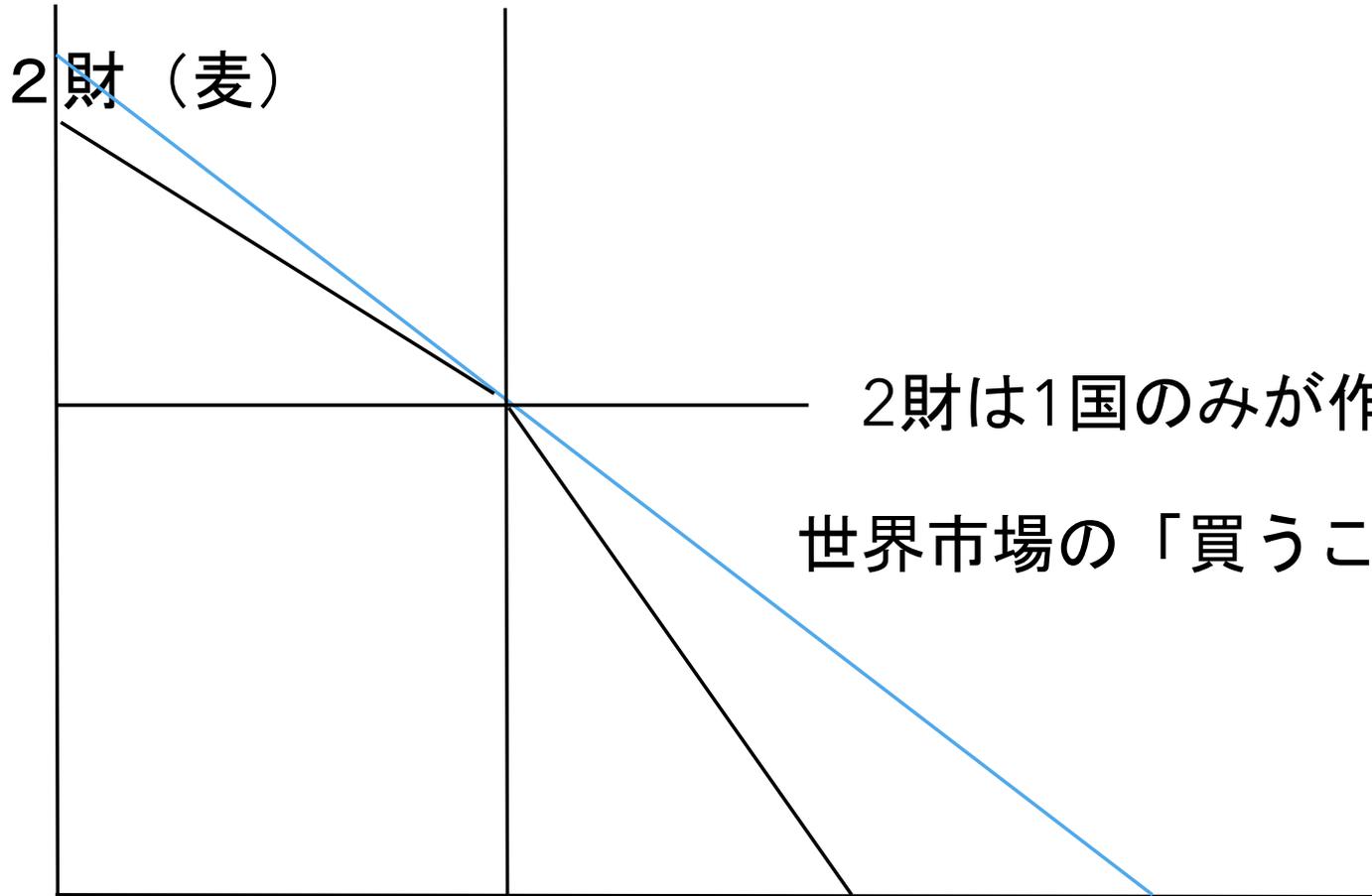
2財（麦）



1財（米）

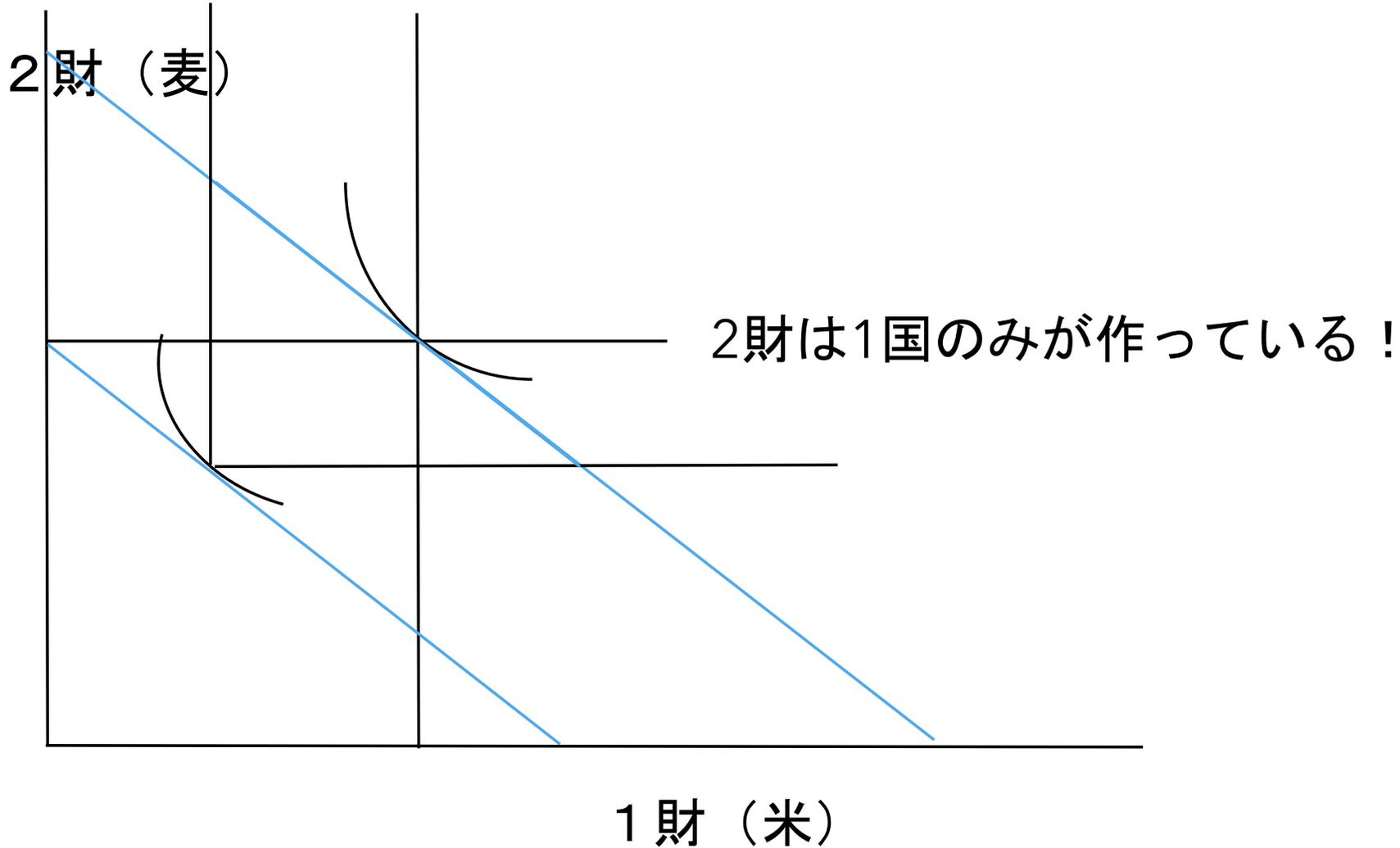
2国（小さな国）

1財は2国のみが作っている！



世界全体 (1国と2国両方合わせた感じ)

1財は2国のみが作っている！



世界全体（1国と2国両方合わせた感じ）

2020/07/09はここまで

